

JAPANESE UTILITY MODEL UNEXAMINED PUBLICATION

(11)Publication number : 61-107767
(43)Date of publication of application : 08.07.1986
(51)Int.Cl. : B65D 77/30
(21)Application number : 59-192527
(22)Date of filing : 19.12.1984
(71)Applicant : NIHON TOKKYO KANRI CO LTD
(72)Inventor : HIROMICHI INAGAKI
(54)APPARATUS FOR CONFIRMING OPENING OF PACKAGED GOODS

公開実用 昭和61-107767

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-107767

⑬ Int.Cl.⁴

B 65 D 77/30

識別記号

庁内整理番号

7123-3E

⑭ 公開 昭和61年(1986)7月8日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 包装品における開封確認装置

⑯ 実 願 昭59-192527

⑰ 出 願 昭59(1984)12月19日

⑱ 考 案 者 稻 垣 宏 道 犬山市字前田面1-143

⑲ 出 願 人 日本特許管理株式会社 東京都文京区本駒込5丁目73番2号

⑳ 代 理 人 弁理士 大 橋 弘

明 細 書

1. 考案の名称

包装品における開封確認装置

2. 実用新案登録請求の範囲

対向する包装用フィルムのシール面の一部に、相互に一部が重なり合うように剝離剤を印刷又は塗布すると共にこの剝離剤の上に着色したヒートシール層を夫々形成してヒートシールした構成の包装品における開封確認装置。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、一旦密封包装した商品が、悪戯などの理由により開封されたことを確認できる開封確認装置に関するものである。

〔従来技術とその問題点〕

食品の包装には、現在多くの分野でプラスチックフィルムが使用されているが、このプラスチックフィルムの場合には、ヒートシールした部分があとで開封され、再び同じように再シールされてしまうと、一度開封されたことが判らないことが



多い。

このため、食品に対する悪戯防止の目的でプラスチックフィルムにより商品を間接的に密封したり、或いは直接密封するようにしても、完全な悪戯防止対策とはなり得ない。

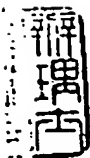
〔本考案の目的〕

本考案は、一度開封したことを直ちに確認することのできる、包装品における開封確認装置を提案するのが目的である。

〔本考案の構成〕

本考案は、上記目的を達成するために、対向する包装用フィルムのシール面の一部に、相互に一部が重なり合うように剝離剤を印刷又は塗布すると共にこの剝離剤の上に着色したヒートシール層を夫々形成してヒートシールした構成の包装品における開封確認装置を提案するものである。

このように、ヒートシール層と包装用フィルム間に剝離剤を介在させ、然も対向する面において剝離剤が一部重なり合うようにすると、一旦このヒートシール面においてシールを剝してしま



と、剝離剤の部分においてヒートシール層は不規則に剝れ（破れ）てしまうので、再シールを行った際に、不規則な破れ線がシール面に現われてしまう。

この結果、正規の開封ではない開封が商品流通の段階で行われたことが判るので、例えば食品中に毒物を混入したりしても、一目でそれを発見できる。

〔実施例〕



第1図は、上記本考案を実施した食品の包装品を示し、1は包装品全体、2はシール部分である。第2図はシール部分2におけるA-A'線拡大断面図にして、3、3aはポリプロピレンフィルムから成る包装用フィルムにして透明である。4、4aは包装用フィルム3、3aのシール面に夫々印刷されたインキにして、このインキ部分は互いに一部において重なり合うように、4側の間隔Aよりも4a側のインキ巾Bを大きく設定してある。

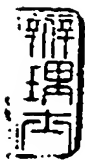
なお、実施例は、剝離剤として、インキを利用

して包装用フィルム3、3aのシール面に印刷を施しているが、その他の剝離剤として、包装用フィルム3、3a側にヒートシールしない物質、例えばアルミ箔或いはヒートシール層のシール剤よりも融着温度の高いプラスチックをコートしたりしてもよい。

5、5aは剝離剤4、4aの表面上であって、ヒートシール面に形成したヒートシール層であって、着色したポリエチレンフィルムをラミネートしたものである。

なお、前記インキ4、4aとヒートシール層5、5aとは同色でもよいし、異色であってもよい。

上記構成のヒートシール部分を剝離した状態を示したのが第3図であって、インキ4、4a部分は、多くは融着が強固となるヒートシール層5、5a側につき、包装用フィルム3、3a側にはつかない。このため、包装用フィルム3、3aを剝すと、着色されたヒートシール層5、5aは、インキ4、4aが印刷された反対側の包装用フィル



ム3、3a側に一体となって剥ぎ取られて行く。
この剥ぎ取られ方は、その一部が重なり合っているため、何れの方に剥ぎ取られるか判らない部分もあり、ある部分は3側に又ある部分は3a側の包装用フィルムに付いて行くこともある。

〔本考案の効果〕

本考案によると以上のように、インキ4、4a部分を一部において重なり合うように印刷したため、剥ぎとられ方はすべての部分において不規則となり、このため一旦剥離してしまうと、再び重ね合わせたとしても、奇麗に合致することはない。

この結果、仮に再シールしても、シール面は汚くなり、一旦開封したあと再シールしたことが一見して判るようになる。

よって、本考案を、食品の悪戯防止用の包装或いは悪戯が直ぐ判る包装用袋などに適用すると有効である。或いは、クジなどに応用してもよい。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案を実施した食品の包装品の外観



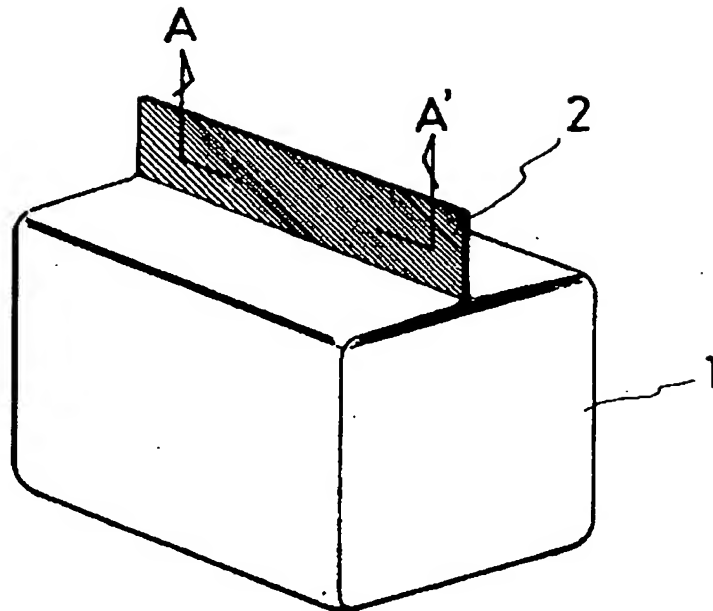
を示す斜視図、第2図はA-A'線拡大断面図、
第3図は第2図においてシール面を剥離した状態
の断面図である。

1 …… 包装品全体、2 …… シール部分、3、3
a …… 包装用フィルム、4、4 a …… インキ、
5、5 a …… ヒートシール層

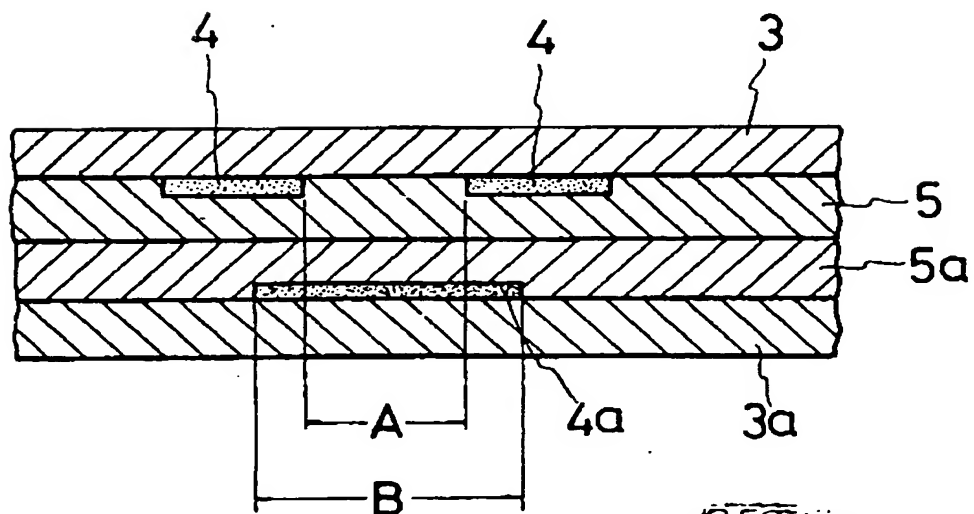
実用新案登録出願人 日本特許管理株式
代理人 弁理士 大 橋



第 1 図



第 2 図



出願人 日本特許管理株

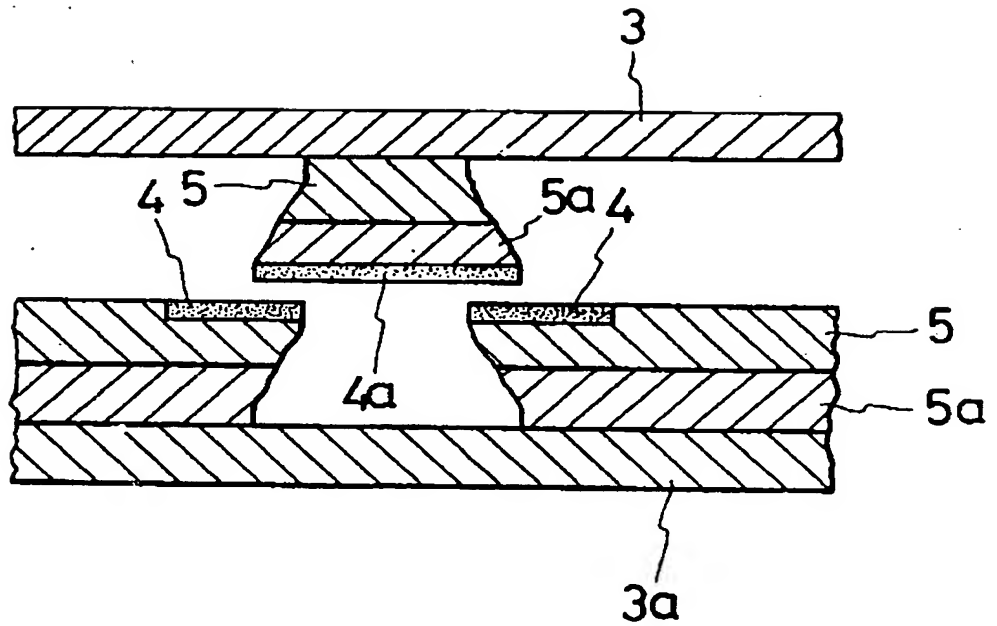
代理人 弁理士 人 村 高

655



61-107767

第 3 図



出願人 日本特許管理株
 代理人 弁理士 大橋



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☒ **BLACK BORDERS**

☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

☐ **FADED TEXT OR DRAWING**

☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**

☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**

☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.